

日本航空宇宙学会関西支部 ライト祭 2023のお知らせ

1903年12月17日のライトフライヤー号によるライト兄弟の初飛行を記念して、航空宇宙をテーマに恒例の「ライト祭」を下記の要領で開催いたします。本年は対面およびオンラインのハイブリッドで開催します。ライト祭への参加には、事前登録が必要です。詳細は関西支部ホームページをご確認ください。高校生、大学生、高専生といった若い世代や一般の方の聴講を歓迎いたします。

主催：日本航空宇宙学会 関西支部

後援：朝日新聞社

日時：2023年12月16日（土）

14時00分～17時00分

会場：大阪公立大学文化交流センター（梅田サテライト）およびオンライン（zoomウェビナー）
大阪市北区梅田1-2-2-600大阪駅前第2ビル6階（TEL:06-6344-5425）



参加費：無料

定員（現地）：120名

定員を超えた場合は、オンライン（zoomウェビナー）視聴をご利用ください。

参加登録：

参加ご希望の方は日本航空宇宙学会関西支部ホームページにアクセスし、参加登録ください。オンライン視聴用URLは参加登録者に後日連絡します。

スケジュール：

14:00～14:30 機器・パネル展示等

14:30～15:30 特別講演 1

15:40～16:40 特別講演 2

16:40～17:00 総合討論

特別講演 1：

小さな翼の世界

空気力学から見た形の違い

～航空機・紙ヒコーキ・昆虫～

金沢工業大学 客員教授 岡本正人 先生

大きな航空機が飛行する場合と小さな紙ヒコーキが飛行する場合では、まわりの空気の振る舞いが異なっている。これは空気の粘性によるもので、大きな航空機よりも紙ヒコーキの方が粘っこい空気の中を飛行することになる。紙ヒコーキよりもさらに粘性の影響を受けて進化してきたのが小さな翅を持った昆虫である。同じ空気の中を飛行するものでも、大きさや速度が異なると形状もそれに適した面白い特徴を持っている。今回は、その小さな翼の形態的な特徴について空気力学の観点から考えてみたい。

特別講演 2：

戦闘機テストパイロットが語る「空の話」

東明工業株式会社 特別顧問 渡邊吉之 様

戦闘機テストパイロットが上空での高速飛行でなにを感じるのか、例えば、マッハ2.5の世界、空気の薄い高高度や高い重力加速度(G)が人体へおよぼす影響、飛行中に陥る上下左右の勘違い、そして、飛行中の危険や緊急事態への対応について経験を交えて説明します。そして、テストパイロットの立場から、パイロットが望む飛行機とはなにか、さらには、これからの飛行機の展望について、わかりやすく説明します。

著書：「戦闘機パイロットの世界：元F-2テストパイロットが語る戦闘機論」、パンダパブリッシング、(2017)

問合せ先：

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1

大阪公立大学工学研究科航空宇宙工学分野

日本航空宇宙学会 2023年度関西支部事務局

<http://branch.jsass.or.jp/kansai/>